

群 教 セ	F03 - 01
	平21.241集

小学校社会科における 群馬県の特徴を考える力を育てる 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の作成

— 県の位置、地形や産業の概要、交通網等を視点として —

長期研修員 須藤 容敏

《研究の概要》

群馬県の特徴を考える力を育てる支援として、教師が授業で活用できる支援教材「ぐるっと、ぐんま」を作成した。県の位置、地形や産業の概要、交通網等に視点を当て、広い視野から、視覚的に、比較を通して、の三つの側面から支援できるように、地図資料や静止画・動画、表・グラフ等のデジタルコンテンツを用いて作成した。これを小学校第4学年社会科「群馬県の様子」の学習で活用し、その有効性を明らかにした。

キーワード 【社会一小 支援教材 群馬県 特色 デジタルコンテンツ】

I 主題設定の理由

平成23年度完全実施される新学習指導要領では、小学校社会科において、改善の具体的な事項の一つとして、地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め、主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けることを重視している。そして、自分たちの住む県の位置、47都道府県の名称と位置などを取り上げて調べるなどの内容が新たに加えられ、具体的な資料を効果的に活用することや県の特徴を広い視野からとらえて考えることの必要性が強調された。

これまで小学校第4学年では、自分たちの住んでいる市町村と他市町村とを比較し、県の様子について、地形や産業、交通網の様子などを手掛かりに調べたり白地図にまとめたりして、特徴を考えるようにする学習が行われている。それまで身近な地域の学習に取り組んできた児童にとって、実際に行ったことや見たことのない場所について調べ比較し、その特徴を考えることは容易ではない。さらに新たな内容として、自分たちの住む県の位置や47都道府県の名称と位置を取り上げて調べるなどが加えられ、広い視野にたって考えることが指摘されていることで、児童には、今まで以上に県の特徴を考える力を育てることやそのための支援が必要である。

このような理由から、児童が、県の特徴を考える学習を進めるために、広い視野から視覚的にとらえたり、具体的な資料を用いているいろいろな比較をしたりすることで、基礎的・基本的な知識や概

念を十分に身に付けつつ、事象を調べたりその意味を考えたりする学習活動ができるような支援教材を作成し、準備することが有効であると考えた。

そこで、県の特徴を考える手掛かりとして、県の位置、地形や産業の概要、交通網等に視点を当て、児童が調べたり白地図にまとめたりしながら特徴を考える学習を行う際に、教師が提示して活用し、県の特徴を広い視野から視覚的にとらえたり比較したりできる支援教材を、デジタルコンテンツを用いて作成することを考えた。

授業におけるICT活用の効果については、「教育の情報化に関する手引き」（平成21年3月文部科学省）などにおいても明示されており、十分明らかになっている。これらの効果を生かした地図資料、静止画や動画、表やグラフ等のデジタルコンテンツを取り入れることで、群馬県の特徴を考える力を育てる支援として有効な教材になると考え本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科第4学年の「県の様子」を調べる学習において活用できるデジタルコンテンツを用いて、県の特徴を考える力を育てる支援教材「ぐるっと、ぐんま」を作成し、授業実践を通してその有効性を明らかにする。

III 研究の見通し

小学校社会科第4学年の「県の様子」を調べる

学習において活用するために、次のような手立てを取り入れれば、群馬県の特徴を考える力を育てる支援教材「ぐるっと、ぐんま」が作成できるであろう。

- 地図資料を取り入れ、全国における群馬県の地理的位置や様子を広い視野からとらえやすくする。
- 静止画や動画を取り入れ、群馬県の地形や主な産業、交通網等を視覚的にとらえやすくする。
- 表やグラフ等のいろいろな資料を見やすく並べることにより、群馬県の特徴を比較を通してとらえやすくする。

IV 研究の内容と方法

1 基本的な考え方

本研究では、群馬県の特徴を考える力を育てる支援教材「ぐるっと、ぐんま」の作成に取り組む。

「ぐるっと、ぐんま」は、児童が群馬県の特徴を考える場面で教師が提示して活用し、これを手掛かりに児童が特徴を具体的に考えることができるよう支援する。また、授業中での児童の疑問や考えに対応し、切り替えがスムーズになるようデジタルコンテンツを用いてHTML形式で作成する。

支援教材「ぐるっと、ぐんま」は、群馬県の特徴を考える学習を進める際に、地図資料を活用し

て広い視野からとらえやすくすること、静止画や動画を活用して視覚的にとらえやすくすること、表やグラフを活用して比較を通してとらえやすくすることの三つの側面から支援できるように構成する(図1)。

(1) 群馬県の特徴を考える力を育てる支援とは

小学校学習指導要領解説社会編では「県(都、道、府)の特徴を考えるようにする」とは、「県の地形や産業等の概要や分布などに見られる特色、及び地域の自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域やそこで生活している人々の生活に見られる特色やよさを具体的に考えることができるようにすることである」と説明している。

こうした能力に関する目標については、系統的、段階的に育てていくことが大切である。このことを踏まえ、本研究では、群馬県の特徴を考える力を育てる支援とは、群馬県の地形や産業等の概要や交通網等に見られる特色に視点を当て、学習課題に即して観察したり調べたりする中で、児童が何に注目すればよいか分かり、疑問を感じたり気付いたりしながら、具体的に考えられるようにすることを助けることであるととらえる。そのために広い視野から、視覚的に、比較を通しての三つの側面から支援することが効果的であると考えた。着目する点については、場所、起伏、水系、地物の配置、統計などを取り上げるものとする。

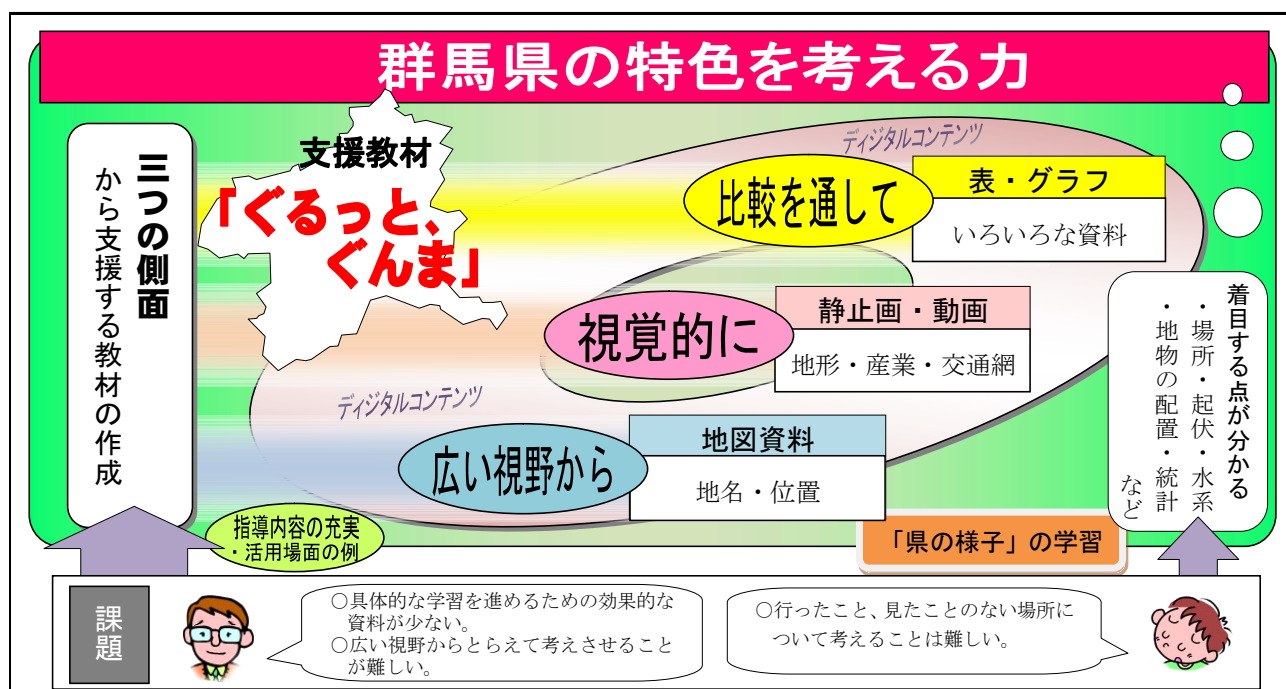


図1 研究構想図

(2) 三つの側面からの支援とは

① 広い視野から

群馬県の特徴を広い視野からとらえやすくするために、全国や周囲の県と群馬県、県内の各市町村と自分たちの住んでいる市町村との関係を取り上げる。その地理的位置を、方位や位置関係を表す言葉などを用いて考えたり言い表したりできるように支援し、知識の定着を図ることにより児童の視野が全国へと広げられるようにする。

② 視覚的に

群馬県の特徴を視覚的にとらえやすくするために、地形や主な産業、交通網等の様子について、児童が実際に行ったこと見たことのない場所の様子を静止画や動画で見られるようにする。群馬県の特徴を考える際、視覚的にとらえて具体的に考えられるように支援することにより、何に着目したらよいかを気づきやすくする。

ア 静止画の効果

学習の中での話題の共有が図れるとともに、着目する点が明確になり、児童の疑問や気づきを引き出しやすくする。

イ 動画の効果

動きや変化のある物、場所の広がり等を再現で

きる。また、再生や静止を繰り返すことで着目する点を逃さず明確にすることができる。

③ 比較を通して

群馬県の特徴を比較を通してとらえやすくするために統計資料等を表やグラフの形で準備する。並べて提示できるようにすることで、児童が群馬県と全国、群馬県内各市町村などの比較を通して数量的な違いなどに着目しやすくなるように支援し、群馬県の特徴について具体的に考えられるようにする。

2 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の概要

(1) 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の構成

県の形や位置を広い視野からとらえやすくなるように、地図資料で構成した「地名と位置」のコンテンツ、群馬県内各地の様子を視覚的にとらえやすくなるように、静止画・動画で構成した「県の地形・産業・交通網」のコンテンツ、群馬県や全国の統計資料などから、表やグラフでの比較を通して特色をとらえやすくした「いろいろな資料」のコンテンツなどで構成した(図2)。

また、教師が活用しやすいように、活用場面の例を作成して加えた。

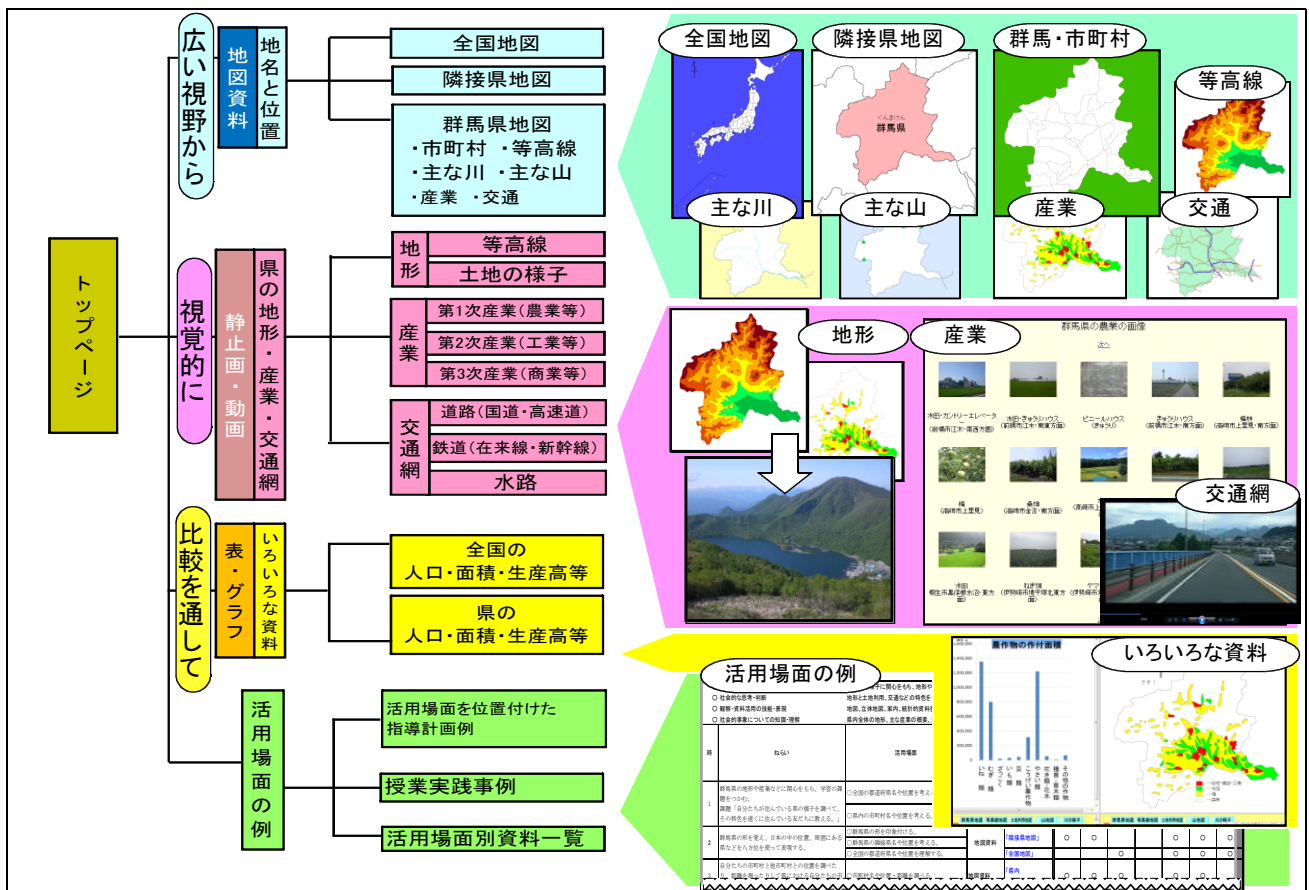


図2 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の構成

(2) 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の内容

① 地図資料

全国から見た群馬県の形や位置、群馬県から見た県内の市町村の形や位置などを、児童が一目で分かるように印象付けるために、白地図上で位置から名前を、あるいは、名前から位置を考えさせた後、ボタンや場所をクリックして確認できるように地図資料を作成した。これにより繰り返し学習による理解の定着が図れるフラッシュ型教材のような提示効果もねらった(図3)。

このようにして、全国、群馬県の隣接県、群馬県内の市町村の位置や名前が考えられる地図資料を作成し、他に県内の主な山や川、等高線等の様子が分かる地図資料を作成した。

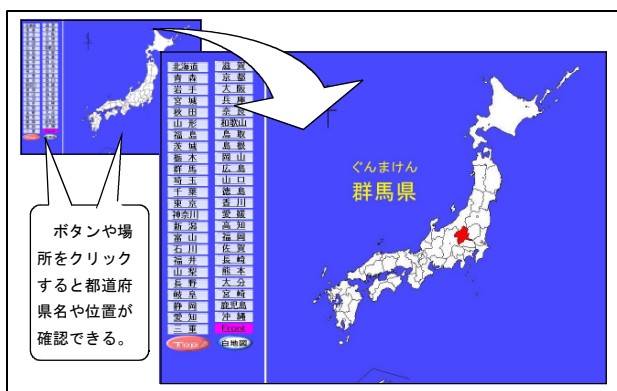


図3 地図資料「地名と位置」

② 静止画・動画

地形や主な産業の概要、交通網等の視点から群馬県の特徴を考えやすいような場所について、県内各地の静止画や動画を撮影して準備した。それを群馬県地図の中に関連付けて見られるように作成した。

ア 地形

県内の地形の様子を土地の起伏や水系等の視点から静止画や動画で準備した(図4)。

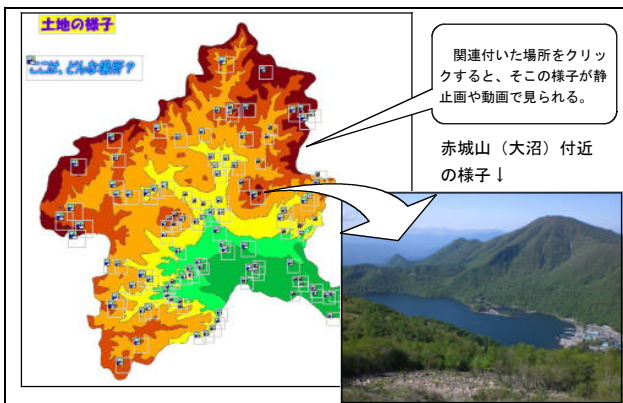


図4 静止画・動画—静止画「地形」

主要な山(標高の高い山、上毛三山等)、湖沼(奥利根湖、神流湖等)、河川(利根川、渡良瀬川等)など、地形の特色を考えやすくなるような土地の様子を静止画や動画を、等高線で表した地図の中に関連付け、関連付いている場所をクリックするとその場所の実際の様子が静止画や動画で見られるように作成した。

イ 産業

県内の産業の概要について、土地利用の様子から静止画や動画で準備した。

農業については、県内で生産の中心になっている米作りから水田の多い地域、また、全国でも1、2位を占めるきゅうりやこんにゃくいもなど主要野菜を生産している地域などの様子を取り上げた。工業については、太田市、高崎市などの主要都市に集まっている工業団地等、大きな工場の様子を取り上げた。商業については、郊外に広がっている大型店の様子をそれぞれ取り上げた。これを、群馬県の土地利用の地図に関連付けて作成するとともに、産業別に整理した一覧にまとめた。

ウ 交通網

県内の交通網の様子を交通の視点から静止画や動画で準備した。

主に県内の国道、高速道路、新幹線等を取り上げ、地図上でどの線がどこを通っているかが分かるようにし、地形や建物など周囲の様子から交通の広がりや考えやすいような場所を選んで撮影した。道路については、実際に道路を自動車に乗って走っている動画などを準備することにより、児童が臨場感を伴って交通の特色を考えられるようにした。また、県境の様子が分かるように、トンネルや橋等も取り上げた(図5)。



図5 静止画・動画—動画「交通網」

③ 表・グラフ

群馬県や日本全国の統計資料等を、表やグラフの形で見やすく整理し、特色を具体的に考えやすくなるように作成した(図6)。

準備する資料は、人口、農作物の作付面積、産業別工場数、商店販売額など群馬県の特徴を具体

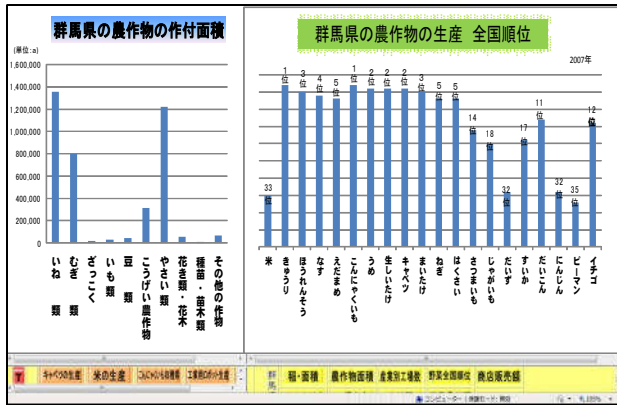


図6 表・グラフ

的な数量等に着目し、比較して考えられるように作成した。

④ 活用場面の例

教師が、「群馬県の様子」の学習において、県の特徴を考える力を育てる指導を進めるにあたって、支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面の例を作成した。これにより本支援教材「ぐるっと、ぐんま」を多くの教師が活用しやすいようにした。その際、社会科における観点別学習状況の評価の観点である「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」「社会的な事象についての知識・理解」とICT活用の効果的な場面などを考え合わせて位置付けるようにした(表1)。また、授業実践事例や活用場面別に整理した資料一覧等も準備した。

表1 活用場面の例

活用場面を位置付けた指導計画例											
目標 群馬県の様子に関心をもち、地理的位置や形、地形や主な産業の概要、交通網、主な都市の位置などについて、日本地図や県の地図を活用したり白地図にまとめたりして調べ、群馬県の特徴を考える。											
		○ 社会的な事象への関心・意欲・態度	○ 社会的な思考・判断	○ 観察・資料活用の技能・表現	○ 社会的な事象についての知識・理解						
		県全体の様子に関心をもち、地形や産業、交通の様子などについて調べようとする。									
		地形と土地利用、交通などの特徴を考えることができる。									
		地図、立体地図、案内、統計的資料を活用し、白地図などにまとめることができる。									
		県内全体の地形、主な産業の概要、交通網の様子、主な都市の位置などに見られる特徴を理解することができる。									
時	ねらい	活用場面	デジタルコンテンツの分類	社会的な事象への関心・意欲・態度		社会的な思考・判断		観察・資料活用の技能・表現		社会的な事象についての知識・理解	
				課題提示	動機付け	比較	体験代行	モデル提示	説明資料	反復・定着	
4	等高線の意味を理解し、群馬県の土地の様子について、高さごとに色を分けて表現する。	○等高線地図を作成する。	地図資料 「等高線地図」		○				○	○	
5	群馬県の地形の様子に見られる特徴を考える。	○地形の様子に見られる特徴を考える。	静止画・動画 「地形」「山」「川」	○	○	○	○			○	○
6	地形との関係から産業の概要に見られる特徴について考える。	○産業の概要に見られる特徴を考える。	静止画・動画 「土地利用」	○	○	○	○			○	○
7	群馬県の産業の概要に見られる特徴についての考えを深める。	○資料を比較して、特徴の理解を深める。	表・グラフ 「土地利用地図」「いろいろな資料」	○	○	○			○	○	

V 研究の展開

1 実践の計画と方法

(1) 授業実践の概要

対象	協力校(小学校第4学年)
単元	わたしたちの群馬県—群馬県の様子—
実践時期	平成21年10月
授業者	長期研修員 須藤容敏



(2) 単元の目標

県内における自分たちの市町村の地理的位置や県全体の地形、主な産業の概要、交通網、主な都市の位置について調べ、県の特徴を考える。

(3) 検証計画

検証の観点	検証の方法
○地図資料を取り入れ、全国における群馬県の地理的位置や様子を広い視野からとらえやすくしたことは、群馬県の地理的位置や地形に見られる特色を考える力を育てる支援として有効であったか。	・ワークシートの内容分析 ・事前、事後の実態調査の比較
○静止画や動画を取り入れ、群馬県の地形や主な産業、交通網等を視覚的にとらえやすくしたことは、地形や主な産業の概要、交通網等に見られる特色を考える力を育てる支援として有効であったか。	・授業中の児童の反応分析 ・ワークシートの内容分析
○表やグラフ等のいろいろな資料を見やすく並べることにより、群馬県の特色を比較を通してとらえやすくしたことは、表やグラフに見られる群馬県の特色を考える力を育てる支援として有効であったか。	・ワークシートの分析

2 授業実践

時	主な学習活動	支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面
第1時	ねらい：群馬県の地形や産業などに関心をもち、学習の課題をつかむ。 学習課題「自分たちが住んでいる県の様子を調べて、その特色を県外（新潟県）に住んでいる友だちに教える」	<p>「ぐるっと、ぐんま」【地図資料】☆全国地図</p> <p>都道府県名や位置を考える場面で活用</p> <p>○日本地図から自分の県の位置や他県の位置、名称等を調べたり、方位を用いて言い表したりすることを支援した。</p>  <p>児童は、投影した地図の上から方位を表すシートを重ねて見たことで、方位が理解しやすくなった。</p> <p>広い視野から</p> <p>「わあー、方位シートが透けた！合体した！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬県や新潟県が、日本のどこにあるか知ってよかったです。 ・群馬県の位置が、分かって、うれしくなりました。 <p>「ぐるっと、ぐんま」【地図資料】☆群馬・市町村</p> <p>県内の市町村名や位置を考える場面で活用</p> <p>○群馬県地図から自分の市の位置や他市町村の位置、名称等を調べたり、方位を用いて言い表したりすることを支援した。</p> <p>児童は、県や全国などの広い視野から形や位置へ着目しやすくなった。</p> 

ねらい：群馬県の形を覚え、日本の中の位置、周囲にある県などを八方位を使って表現する。

第2時

○群馬県の隣接県にはどんな県があるかを調べ、方位を使って言い表す。
○全国の中の群馬県の位置や他の県から見た群馬県の位置について方位を使って言い表す。

「ぐるっと、ぐんま」【地図資料】☆隣接県地図 **広い視野から**

都道府県名や位置を考える場面で活用

○はじめに隣接県名のボタンのあるフレームを隠しておき、地図帳等で調べる活動を行い、最後に確認することを支援した。

フレームを左に寄せ、隣接県名のボタンを隠しておくことで、児童の探究心が高まった。

他の県がどの方角にあるか、もっと調べたくなりました。

ねらい：自分たちの市町村と他市町村との位置を調べたり距離を測ったりして、県における自分たちの市町村の地理的位置を言い表す。

第3時

支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面：県内の市町村名や位置の確認と距離を測る際のワークシートとの併用により、学習の視点を分かりやすくした。 **広い視野から**

ねらい：等高線の意味を理解し、群馬県の土地の様子について高さごとに色を分けて表現する。

第4時

○等高線について理解し、自分たちの市の土地の標高を調べる。

【段階の例】 **広い視野から**

○等高線地図を高さごとに段階を追って表示し、県の土地の高さの違いを気付かせやすくするとともに、色塗りの作業がやりやすいようにした。

ねらい：群馬県の地形の様子に見られる特色を考える。

第5時

○土地の高低の様子や山地は県のどのあたりに多いかを調べ、特色を考える。
○主な川はどのように流れているか調べ、特色を考える。
○建物の様子から特色を考える。

「ぐるっと、ぐんま」【静止画・動画】☆地形地図 **視覚的に**



地形の様子に見られる特色を考える場面で活用

○前時に作成した等高線地図とコンテンツの等高線地図を見比べ、山、川、建物の観点から実際にどんな様子なのか、静止画や動画で見ながら特色を考えやすいように支援した。

児童は、地図と静止画・動画による実際の様子とを見比べ、土地の起伏、水系（川）、地物（建物）の配置等へ着目しやすくなった。

土地の高さ、川の流れ、建物がたくさんあることなどがよく分かった。

第6時	ねらい：地形との関係から産業の概要に見られる特色について考える。	視覚的に
6時	支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面：群馬県の土地利用の様子の地図から地図上で示された場所の実際の産業の様子を静止画や動画で見られるようにし、特色を考えやすいよう支援した。	

第7時	ねらい：群馬県の産業の概要に見られる特色についての考えを深める。	比較を通して
7時	<p>○田や畑の広がり様子と県で生産されている農作物の資料を比較して、その特色を考える。</p> <p>○県内の主な工場の分布や産業分類表などから工業の特色について考える。</p> <p>○県内の商店で販売されているものなどから商業の特色について考える。</p>	<p>「ぐるっと、ぐんま」【表・グラフ】☆いろいろな資料</p> <p>資料を比較して特色の理解を深める場面で活用</p> <p>○関連する資料を連続的に提示したり、並べて提示したりして、産業の特色を具体的に考えやすくし、理解を深めることを支援した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>児童は、統計資料の様子から全体と対象とを比較し、違いなどに着目しやすくなった。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>伊勢崎市には工場が800個ぐらいあることが分かり、とても多くてびっくりした。 全国で1位の野菜がきゅうり、こんにゃくも、2位がキャベツ、梅など、ということが分かりました。</p> </div> </div> <p>・表やグラフを並べて提示できることで、比較から気付くことや市町村の位置等の確認が容易にできた。</p> <p>【資料活用の流れ等】</p> <p>☆県内市町村の農作物の作付面積→米の作付面積→全国生産高のグラフ</p> <p>☆県内で生産されているこんにゃくいもの分布図→野菜の全国順位のグラフ</p> <p>☆県内の主な工場の分布図→産業分類表→全国工業生産額グラフ</p> <p>☆商店販売額のグラフ</p>

第8時	ねらい：県の交通網の様子に見られる特色を考える。	視覚的に
8時	支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面：実際の交通の様子の静止画・動画を見ることにより、地形と交通網との関係をとらえやすくなるように支援し、交通網の様子に見られる特色を考えやすくした。	

第9時	ねらい：群馬県の特色を遠くに住んでいる友だちに教える。	
9時	○当初の課題に沿い、これまでの「県の様子」の学習のまとめとして、群馬県の特色を考え、県外（新潟県）に住んでいる友だちに教える内容の手紙を書いた。	

VI 結果と考察

1 地図資料を取り入れ、広い視野からとらえやすくしたことについて

授業実践の前と後に、児童（129名）に実態調査を行ったところ、方位や自分たちの住んでいる市や県の形などの理解については、次のとおりであった（図7）。

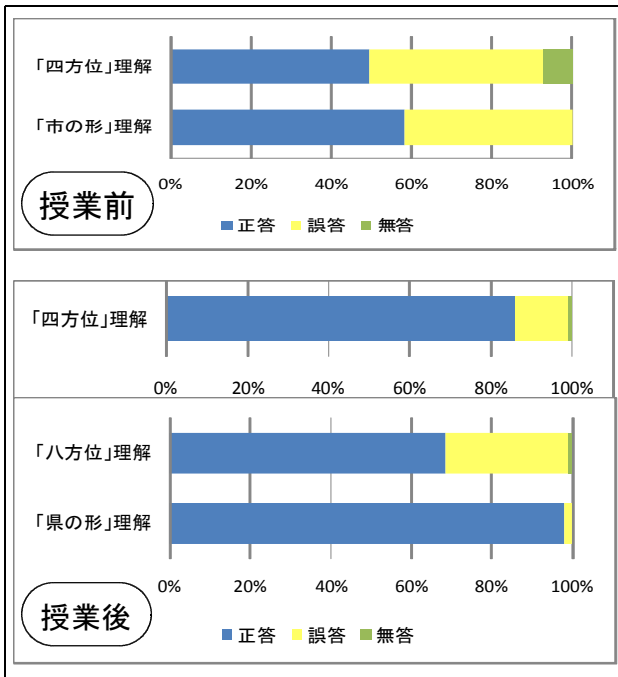


図7 授業実践前後の児童の実態

授業の導入時においても、地図上で位置を示す際には「上の方」や「端の方」などの表現を用いる児童がほとんどであった。しかし、支援教材「ぐるっと、ぐんま」をフラッシュ型教材のように活用し、日本地図や群馬県地図上で地名を言い当てたり、位置を示したりする活動を取り入れたことにより、全体から見た位置を方位を用いて言い表したり、考えたりしようとする意識が定着し、児童の授業での発言やワークシートなどから次のような気付きも見られた。

【地図資料からの気付き】

- ・新潟県に近付くと土地が高くなる。
- ・北に行くほど土地が高くなっている。
- ・土地の高さは南東から北西に向かって高くなる。

さらに、授業後の調査では、四方位はもちろん八方位の理解についても深まってきていることが結果として表れていた。

これらのことから、児童は、県の位置や地形の様子を表すために方位や隣接県などとの関係に着目し、地理的な位置を表現する方法としての方位や全国の都道府県の位置等の理解をうまく活用して、自らの考えで表現したことが伺える。これは、児童が自分たちの県や市について全国や県という広い視野に立って考え、その様子をとらえようとしたからである。このようにとらえて表現できたことは、群馬県の地理的位置や地形に見られる特色を考える力を育てる支援として、地図資料を用いて知識・理解の確認や定着等を図り、広い視野からとらえやすくしたことが有効であったからであると考えられる。

2 静止画や動画を取り入れ、視覚的にとらえやすくしたことについて

実際の様子を静止画や動画等で見せることの効果については明らかな点であるが、本授業実践においても児童からの歓声が多く聞かれ、初めて見る景色等への感動から意欲的に発言する姿が見られた。特に、等高線、土地利用の様子を表した地図の場所に対応した静止画や動画が見られたことにより、全体で話題を共有することができ、場所の様子から特色を具体的に考え、表現している児童の様子が見られた。以下は、授業での児童の発言やワークシートに見られた静止画や動画からの気付きの内容である。

【静止画や動画からの気付き】

- ・山は、丸い山、でこぼこの山、木が生えている山、生えていない山などいろいろあった。中でも妙義山が一番複雑な様子だった。
- ・群馬県の川は、激しく流れているところや堰がある川などがある。
- ・前橋市の市街地は、山地に比べて緑が少なく建物がいっぱいある。
- ・山がたくさんある所には大きい家があまりないけど、山があまりない所には大きい家がある。
- ・南東の所は町がいっぱいあって、北の所は山が見える。

（下線部は、静止画や動画を見たことによる特徴的な表現であり、特色を考えるための大きな動機付けとなった表現であると考えた）

このように、土地の起伏や水系、地物の配置等に着目し、地図の上では同じように表現されてい

る地形や産業の様子でも、実際には様々であることに気付くことができていた。静止画や動画を用いて群馬県の様子を視覚的にとらえやすくしたことは、群馬県の地形との関わりから産業の概要や交通網等に見られる特色を考える力を育てる支援として有効であったと考える。

3 表やグラフ等のいろいろな資料を見やすく並べ、群馬県の特色を比較を通してとらえやすくしたことについて

いろいろな表やグラフ等を見やすく並べたり、組み合わせたりして提示することで、児童はそれぞれの統計資料を関連付けて考えることができた。その結果、次のような気付きがワークシートに見られた。

【表やグラフ等からの気付き】

- ・群馬県は、米や野菜の生産が多い。でも、米の生産は全国では33位であまり多い方ではない。
- ・北海道の方が土地は広いけど、新潟県と両方米の生産は同じくらい。
- ・群馬県は、こんにゃくもやきゅうりが全国でも1位なので、いっぱい作られていることが分かった。
- ・こんにゃくもののほとんどを、群馬県と栃木県で作っている。
- ・愛知県は、自動車(の生産量)が多くて、北海道は米(の生産量)が多かった。
- ・群馬県では、工場の多い所が伊勢崎市や太田市、高崎市だということが分かった。

これらのことは、例えば、初めに「県内の農作物の作付面積」のグラフによって県内の農作物では何が一番多いかを考え、次に「県内の市町村の米の作付面積」のグラフから、どの市町村に多いかを考え、さらに「全国の米の生産高」のグラフから全国における群馬県の様子を考える。このようにねらいに即して考えさせたい内容の関連付けや比較が容易にできたからであり、それによって、特色について児童が全体と対象との数量的な比較による具体的な違いに着目している様子が伺える。表やグラフを見やすく並べたり、組み合わせたりして提示したことは、児童に一つのものや場所だけでなく、複数のものを比較して特色をとらえようとする意識をもたせるために効果的であったと考えられる。

群馬県の特色について、表やグラフから比較を通してとらえやすくしたことで、特色を具体的に考えることができ、群馬県の特色を考える力を育てる支援として有効であったと考える。

VII 成果と今後の課題

1 成果

- 地図資料を取り入れ、群馬県の地理的位置や様子を広い視野からとらえやすくしたことで、全国の都道府県名や位置、県内の市町村名や位置などの理解が深まり、群馬県の地理的位置や地形に見られる特色を考える力を育てる支援として有効であった。
- 静止画や動画を取り入れ、群馬県の地形や産業の概要、交通網等を視覚的にとらえやすくしたことで、地図上に表された場所の特色が考えられ、群馬県の地形との関わりから産業の概要や交通網等に見られる特色を考える力を育てる支援として有効であった。
- 表やグラフ等のいろいろな資料を見やすく並べることにより、群馬県の特色を比較を通してとらえやすくしたことで、特色を具体的に考えることができ、群馬県の特色を考える力を育てる支援として有効であった。

以上のことから、本支援教材「ぐるっと、ぐんま」が、群馬県の特色を考える力を育てる支援教材として、有効な教材であることを明らかにすることができた。

2 課題

- 群馬県の特色を考える力を育てる支援教材として、より効果的な活用が図れるよう指導の中での支援教材「ぐるっと、ぐんま」の活用場面や提示方法を工夫していきたい。
- 支援教材「ぐるっと、ぐんま」の構成や内容の吟味、充実と、簡単な更新の工夫を図り、より一層使いやすく汎用性のあるものにしていきたい。

<参考文献>

- ・教育情報化推進協議会『教員のICT活用指導力向上／研修テキスト』（2008）